

2025 年 2 月 14 日
株式会社ラクト・ジャパン

当社取締役会の実効性に関する評価結果の概要について

当社は、持続的な成長や企業価値の向上、「世界を食で繋ぎ、人々を健康に、そして笑顔にする」というパーパスの実現を両立することが株主の皆さま、お取引先、従業員などすべてのステークホルダーの期待に応えるものと考えております。そのための基盤として、コーポレート・ガバナンスを確立することは経営上の最重要課題の一つであると捉え、「コーポレート・ガバナンスに関する基本方針」を策定し、着実に実行してまいりました。当基本方針第5章第20条では、取締役会全体の実効性について、毎年各取締役の自己評価なども参考にしつつ分析および評価を行うことを定めております。この定めに則り、この度、2024年度の取締役会において実効性評価を実施し、分析・評価を実施いたしましたので、以下のとおりその概要をお知らせいたします。

1. 分析・評価の方法

2024年度は昨年同様に、透明性・客観性の確保を目的として、外部機関にアンケート集計・評価分析を委託しております。全評価者が外部機関に直接回答することで、匿名性を確保しました。集計ならびに分析結果は2025年2月の取締役会に報告され、議論を行いました。

アンケート実施期間 2024年12月～2025年1月

評価者 取締役 5名、監査等委員 4名 計9名

2. 評価項目

「取締役会の実効性評価」アンケートの大項目は以下のとおりです。

- ① 取締役会の構成と運営 (質問数5問)
- ② 経営戦略と事業戦略 (質問数6問)
- ③ 企業倫理とリスク管理 (質問数5問)
- ④ 業績モニタリングと経営陣の評価・報酬 (質問数4問)
- ⑤ 株主等との対話 (質問2問)

質問数 計22問

3. 分析・評価結果の概要

各質問の評価尺度は5段階評価とした上で、全取締役の評価平均値が 4.3 以上であることから取締役会の実効性は概ね確保されていると判断いたしました。

【評価尺度】

- 5:有効、適切
- 4:どちらかと言えば有効、適切
- 3:どちらともいえない
- 2:どちらかと言えば改善余地あり
- 1:要改善、不適切

また、前回評価の改善点につきましては以下のとおり進捗は認められたものの、引き続き改善の指摘もありました。

① サステナビリティを巡る課題への対応を通じた企業価値向上

専門部署となるサステナビリティ推進部を新設し、具体的な実行に向けた体制づくりは進行している。今後の取締役会では、定期的な進捗状況の確認や非財務情報の開示体制の充実など積極的に取り組み、企業価値の向上につなげるべきである。

② 人材戦略の在り方と適切な監督

新たに導入された人事制度や研修制度の運用状況を注視しており、管理部門の人材補充の強化も確認している。今後は、中長期を見据えた経営戦略の一環として人材戦略を捉え、人材育成や採用の在り方など人材に関わる議論を深めていくべきである。

③ 中長期戦略の策定

中長期的な経営課題に対する報告事項にとどまっている現状に対し、取締役会では中長期経営課題の解決に向けた審議時間を充実させる必要がある。将来に向けた重要課題について、多様な角度からさらなる検討を行い、照準を定めた戦略と計画を実行させるべきである。

4. 今後の取り組み

上記評価のとおり、当社取締役会は概ね適切に機能しており、その実効性はこれまでの取り組みにより、着実に向上していることが確認できました。一方で、上記の改善点に加え、資本収益性や株価の改善に向けた方針の策定と取り組みの推進についても、引き続き取締役会での議論・監督を進め、企業価値向上に務めてまいります。

以 上